

1. 日 時 令和5年12月11日(月) 午後7時00分～8時30分

2. 場 所 中野区役所1階 特別集会室

3. 出席者(10名)

(1) 委員(五十音順:敬称略)

稲尾 公貴 小宮 領 鈴木 真理 谷 進二 福原 紀彦
星野 新一 増田 宏明 宮田 百枝 山越 亘恵 吉川 信将

(2) 事務局

濱口総務部長、浅川総務課長、事務局職員

4. 議 題

(1) 配付資料の説明等について

(2) 議員報酬・特別職給料及び各職の期末手当の適否について(審議)

(3) 答申へ向けての意見集約

(1) 配付資料の説明等について

会長

定刻になりましたので、ただいまより中野区の特別職報酬等審議会、第3回の審議を始めたいと思います。まず、事務局より資料についてのご説明をお願いします。

本日の配付資料について、総務課長から説明を行った。

(2) 議員報酬・特別職給料及び各職の期末手当の適否について(審議)

会長

ご説明ありがとうございます。

早速審議に入っていきたいと思いますが、委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

委員

私は、議長、副議長の説明で、費用弁償を自主的に廃止にしたことと、定数を減らしていくという決意も感じられましたので、これは評価できると思います。

委員

他区の上げ幅を見てみて、個人的な感覚ですが、0.3%とか、そんなものなのですかね。もっと物価が上がっているような気がしますが。

会長

各職の努力も勘案し、それと乖離しない程度で中野区独自に判断するというので。

議員の話が出ましたので先に議員報酬から議論していきます。他のご意見もお願いします。

委員

やはり特別職の方と大きく違う部分というのが、退職金がない。それに加え、議員の仕事、出

費的なものも色々かかるかと思えます。それを考えると、特別職の方と比べて議員の方の報酬というのは、やはり全体で低いのではないかなと前から思っていたところでして、今回引き上げの動きがありますので、それに合わせて、上げる方向を考えてもいいのではないかと私は思っております。議員の方の月額が50万円台というのは、何か感覚的にもちょっと低いのではないかなとは思っています。

会長

今までも議員はそれだから上げてあげたかったけれども、議員はみんなが選んでいるのもあり、区民が苦しんでいるときにはそんなに上げられませんよというのが続いてきてしまった。だからあくまでも課題としては、区民にも許してもらえるような環境、そういう状況になったときには、中野区が低めだからちょっと上げたいなというのは、これまでの議論ではありました。

委員

続きで、議員の方が兼業は可能ですが実際にはあんまり、1割、2割ぐらいしかいないとおっしゃっていましたが、区民感情としては兼業してもらうよりは、議員の生活ができるぐらいは渡して、逆に議員の活動にかなり集中してほしいなという意見が強いのではないかなと、私は推測します。

委員

中野区の場合は立候補する方が多いのですが、地方に行くとやはり、お仕事の割に報酬が少ないということで、なり手が不足しているという話を聞きました。

やはりこの金額に見合ったところとなりますと、若い方が「これならやってみよう」というような、動機づけになってもらえたらなというふうに思います。

会長

皆さんのご意見聞いていると、これまでの状況が改善されるなど、これまでとは違った事情があるので、今年は引き上げの方向考えていいのではないか。そうすると、これまでの経緯や数値を見て、上げ幅はどれぐらいがいいでしょうか。

委員

月額報酬が23区中23位ということもありますけれども、私は特別区人事委員会の勧告にある公民較差の割合と同じの0.98%引上げがいいと思います。

委員

私は、この環境下で上げないという結論がもし出たとすると、議員さんには頑張ってもらわなければいけないのに、「それじゃ頑張れないよね」というような感じが、逆に出てくる方もいらっしゃるように思います。だから、委員の0.98%に私も同調いたします。

会長

議員は0.98%上げても月額5,800円ということですね。年収の増額はおよそ19万円というのがあるということです。よっぽど据え置くということはないのだけれど、他区は一般給料表のうち部長級の最高号給の改定率と同水準である0.3%ぐらい上げてきているのでというのはありますね。

委員

先ほどちょっとお話がありましたけれど、50万ちょっとですか。それで0.3%上がって、月1,400円とか1,500円とかというと、光熱費の値上がり分も埋まっていない感じがします。

会長

皆さまご意見ありがとうございます。大体の方向が見えてきたので、期末手当のほうも併せていかがでしょうか。去年は期末手当を0.1月上げたということはありませんね。

委員

去年の一般職への勧告は0.24月のアップだったのに据え置きましたね。それを考えるとやはり。

会長

手当はそうすると、0.1月というところで。財政的に逼迫しているとか、下げ要因があれば別だけれども今回はないということで。

それでは、議員につきましては、議員改革の推進等、積極的な判断ができる環境が整ったということも言えるかと思えます。区民の理解も得られるという判断の上に、給料については公民格差を是正する平均値として設定されている0.98%を、また期末手当については示されている0.1月を適用して、議員の報酬並びに手当の額の答申に向けたいと思えますがよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

続いては、特別職のほうはいかが計らいましょうか。まず区長、副区長、教育長あたりは大体一律で。常勤の監査委員については、他区よりも中野区はもともと高く設定しておりますので。しかし、人が替わったあたりで今回考え直そうと。全く据置きばかりではなくて、少しは考え直そうという意見もこれまでから継続しているところなので。その辺を踏まえまして、特別職のご意見をいただいてまいりたいと思えます。いかがでしょうか。

委員

区長、副区長、教育長に関しては、基本的には議員と考え方でいいかと私は思います。

会長

区長と副区長、教育長も他区に比べると低いですよ。

コロナのワクチン支給とか評価高かったですよ。ただ、それを良い評価をして、上げていくことができなかったというのがこれまでだったので。議員について考えたのと同じ考え方は、区長、副区長にしているのかもしれないですね。他にもどうぞ。

委員

さらにプラスアルファするとすれば、中野は今大型プロジェクトばかりやっているの、やはり相当頑張っていたかかないといけないということで、期待を込めてという意味もあります。

会長

私の考えでは、議員と同じように区長は公選で、そして副区長は区長の両腕としておいでになるので、一緒でもいいかなと思っています。教育長については、2つの役職を一緒にやっているという評価は、この前の質疑からも受け取れたことかと思えますね。

ですので、区長、副区長、教育長については、あまりどれかを別に考えるという感じではなくて、一緒に評価していいような状況ではありますけれどね。その他のご意見いかがですか。

委員

私は区長以下の人は議員とは少し差を設けて、逆にあまりそれほど上げないほうがいいのではないかなと思っています。やはり他区と比べ議員報酬がかなり低いので、少しでも差を無くすというのは趣旨としてあります。さらに区長などは、短期でも退職金が出て、また期間が更新す

れば出るというのを聞きまして、答申の対象にはなっていないですけども、金額的にはかなり大きいものであるのであまり上げないほうがいいのではないかと考えています。

会長

意見としては上げる方向で一緒だけれども、上げ幅ということを考える点においては、退職金の考えを反映するというご意見でしょうね。それも、そういう考え方ができるかと思います。具体的には高位職程度の0.3%に上げていくということですか

委員

そうですね。

会長

上げ幅については0.3%と0.98%の2つ方向性が出てきたので、折り合いをつけたいのですが、いかがでしょうか。退職金の観点もあるけれど、議員はやろうと思えば年数、限りないですよという。その辺どうでしょう。他区比較のことも出てきていましたけれど。

委員

他区があまり上がってないという方向性ですか。

会長

現状、他区が上げてきているのと同じだったら同じように低いだらうというね。要するに下位にいと、他区と同じぐらいの上げ幅だと差はどんどん開いていく。こういうときに一度上げておく必要はあるかなというご意見が先ほど出ていますよね。

給与のほうは、0.3%でいいのではないかという意見ですが、これについては、他区は大体少なくとも0.3%上げてきているから、そうすると差は広く一方ですよ。

委員

中野区は今、区長16番目、副区長も16番目、教育長は19番目ですね。確かに下のほうです。

委員

常勤監査委員はあまりよく知らないのですが、区長、副区長、教育長は、常に対外的にも休みもないですし、激務だなどは常日頃思っています。

会長

今、委員が言われたように、やはり大変重大な職責なんだというので、上げ幅は高めに設定されてもいいのではないかとということです。

さて、委員のご意見をお聞きしていると、特別職については、議員とはもちろん違うとはいえ、他区比較で下位にいることもあり、また議員と別の立場で大変評価の高い政策を遂行されているということもありますので、結論として、議員と同様の上げ幅という意見が多かったということにさせていただいてよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

最後に監査委員です。新しい職位だから、最初からボンと高めに設定しているのですが、どうでしょうか。過去を見ると平成28年には、議員報酬も特別職給与も上げていたけれど常勤監査を除くというふうになっているのは例がありますが、この点いかがでしょうか。

委員

たしかに常勤の監査委員だけ飛び抜けて高いですね。

会長

最初のこの職位が誕生したときに給料設定する際、ガバナンス監査の重要性から他区に比べて高くつけたということは言えます。ちゃんと監査に意義を感じていただきたいという皆さんの意見を踏まえて決定したので、決して高くつけ過ぎたという思いがしている訳ではなくして、そういう職位の評価を高めたことには意味があるのだとお伝えします。そこで自然に他を上げたときに、据え置いて近づいてきたのですが、今はどうなっているのでしょうか。

委員

今は3位になっていますね。

会長

そういう状況なので、議員と同じように0.98%上げてしまうと、他区と比べてかなり高くなる。私はこれを最初に設定した時も一委員としてここにいて「いや、この職は大事だ」ということで、これを大事にしてきたおかげで、きちっとした監査体制が中野区は敷かれてきたので、これはこれとして意味はあると思っていますので。かといって同じようにしてしまうと、他区と差が増える。高いところにあることは引き続き高いところにあってもいいんだけど、他の低いのを上げていくのと同じペースで上げてしまうといけないので。いかがいたしましょうか。

委員

他区を見ると、常勤の監査委員は引き上げ幅が、区議会議員とか特別職はどこも同じですよ。その中で、監査委員だけ別で変えているとか、そういう区はないですね。

会長

ないです。それは中野区の特徴なんです。

委員

対応としては、中野区はちょっと特徴的だと。でも、それもあっていいですよ。

会長

去年の常勤監査委員は、期末手当は引き上げたんですよ。今年はどうでしょうか。ここだけ他区並には上げておくのか、据置いて他区がちょっと上がってくるのを待つのかという。

委員

あるいは上げ幅を抑える、ですかね。

会長

上げるんだったら上げ幅を抑えて、他区の低いところと合わせておいてもいいかもしれないね。いかがでしょうか、この辺。他区は0.98%にしているけれど、ここは0.3%ぐらいに上げると。

委員

そうですね。やはり監査は大事だと思いますのでその程度の引上げは賛成です。やはり権限と報酬はリンクしているから、監査が、報酬が低くてやる気がない、あるいは能力が低い人しか来なかったら、本当の監査はできないしということはあるですね。

会長

中野区の常勤監査委員は大体職員からなっているので、区政における監査の意味をよく分かっていると言える。つまりガバナンスを堅持すると。

ここは他区並みの 0.3%としておけば中野区の監査を尊重していることは貫けるので、ここは 0.3%と。期末手当は他の職と同様の 0.1 月引上げあたりが折り合いがつくところかな。

では、そのような方向で、議員それから特別職の中で区長、副区長、教育長、それと、今の常勤監査委員との3種の方向性、折り合いのつけどころも含めてご議論してきました。

議員報酬及び常勤の監査委員を除く特別職の給料は 0.98%引上げ、常勤の監査委員の給料については 0.3%引上げ、期末手当は全ての職で0.1月引上げを結論といたします。そのような形で答申文としてまとめていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

それでは、本日は以上とさせていただきます。ありがとうございました。